ICICニュース

Vol.18 No.4 通巻68号 2014年2月1日発行

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 神保町センタービル5階
Tel.03-3262-1486 Fax.03-3234-0872 E-mail edit@chizujoho.jpn.org

International Cartographic Information Center NEWS　編集・発行　一般財団法人地図情報センター

巡検・セミナー開催のご案内

平成26年第1回巡検のご案内（仮申込は2月中）

日　時：平成26年4月5日（土）20名様限定！

場　所：韮山反射炉・韮山代官所跡・※三島市内

世界遺産に推薦予定の日本の近代遺産のうち、世界で唯一残されている反射炉を見学します。参加者が14名様以上の場合、品川駅から観光バスを利用しますので、**皆様奮ってご参加下さい（申込は上記まで）**。バスの場合、交通費は約6～7,000円程度となります。

※参加者13名様以下の場合、三島駅集合となります。交通費は往復新幹線と伊豆箱根鉄道で東京から9,000円程度となり、三島市内（柿田川、三島神社等）の見学はございません。仮申込の方には3月中に正式書類をお送りします（その時点での取り消しも可）。

★ 詳細はホームページをご覧下さい。

展覧会情報

地図アラカルト 世界と地域

会　場　埼玉県立文書館
電　話　048-865-0112
期　間　1月4日～2月23日

世界のブックデザイン2012-13

会　場　印刷博物館
電　話　03-5840-2300
期　間　11月30日～3月2日

旅に出よう－絵地図からはじまる物語－

会　場　兵庫県立歴史博物館
電　話　079-288-9011
期　間　1月18日～3月2日

秋田の国と城

会　場　千秋文庫
電　話　03-3261-0075
期　間　1月14日～4月19日

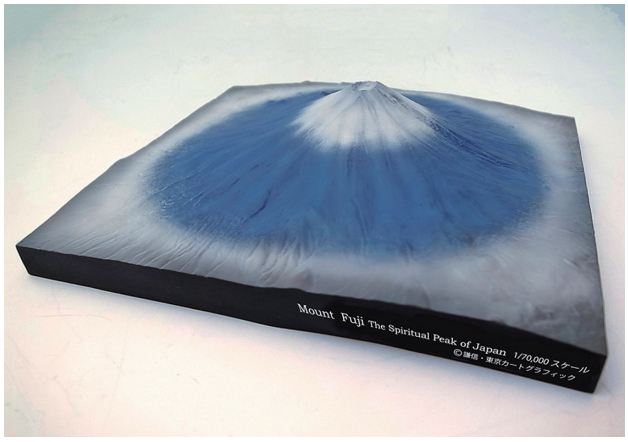
大江戸と洛中～アジアのなかの都市景観～

会　場　江戸東京博物館
電　話　03-3626-9974
期　間　3月18日～5月11日

mini地図NEWS

平成 富嶽 三十六景 "第一景" 富士山

最近話題の3Dプリンタ（工業用）で作られた富士山の1：7万スケール（25.5cm×25.5cm×7cm：額装の場合）モデル。国土地理院発行の基盤地図情報を使用しており、細部にわたりポリストーンで精巧に出力されています。他の立体地形モデルに多く見られる垂直変倍はおこなっていません。（謙信・東京カートグラフィック）



城郭復元「城ラマ」第一弾 三河長篠城

最近は歴女に代表される歴史ブーム。この製品は長篠城の城郭を1：1500スケール、A4サイズで復元しています。図だけではわかりにくい地形を立体模型で表現。ムックや古地図（特装版のみ）、さらには城ラマオリジナルソングCDまで付いています。またスマホ用「城ラマARアプリ」も提供されています。このようなメディアミックスの姿勢は "地図・地理" 分野でも見ならいたいものですね。（お城ジオラマ復元堂）

地　図　絡　み

第56回 鶴見川25km夜行軍

帝京大学理事　井口悦男

昭和18（1943）年夏前後、中学1年の折と思うが、2次大戦下、授業に「体教」と称した「軍事教練」まがいの、中学校配属将校担当のものが組込まれ、その野外実習版に全校行事として「夜行軍」が登場し、下級生は25km、上級生は50km（その区分いま不明）の行程であった。

しかし不思議なことには、集合地が東横線「新丸子」駅近くの「中原街道」多摩川に架かる「丸子橋」脇、西側河原というだけで、行き先を告げられなかった。言われていたのは、25km夜から朝まで行軍することであった。

真暗な河原に、各自持参の懐中電灯の光線がチラチラ交差することしばし、定刻、点呼、整列のまま、ぞろぞろと砂利の街道を踏み出し、「中原街道」を東京と反対の西に進んだ。多分、ズボンの裾にカーキ色のゲートルを巻いていたに違いない。水筒のほかに食料持参か憶えていない。

行軍道筋は、当時多摩川を渡った先は、ほぼ農村域で、街道沿いに家々は連続しておらず、照明はポツリポツリで、家々は戸を閉ざし、全体として暗闇であり、ただ道が続いているばかりで、周辺の景観は、皆目つかめない。言うならば、カーブや坂のぐあいは感じても、どこも同じ所が続くにすぎなかった。

昭和36年公開の東宝の喜劇映画「駅前団地」に登場する「西生田」駅。自転車に乗る洗濯屋は坂本九さん。真ん中の白い看板に「百合ヶ丘団地」とある（Cedarの今昔写真日記ブログより）。

夜半過ぎると、睡魔が忍び寄る。各自この初体験に、用心深く列前と両隣の仲間に手を伸ばして、列から外れないように頼む者、何も対策することなく、歩きながら眠ってしまう者、睡魔と闘う者、それぞれと思うが、列の中にいた故か、歩み続けられ、列外に出てしまう脱落者は出なかった。

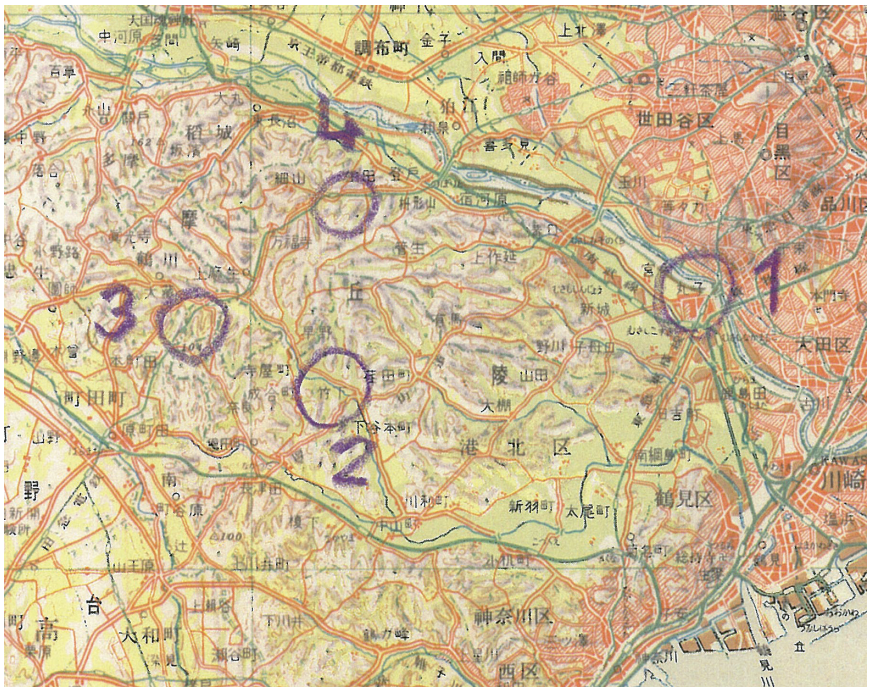
暗闇の道行で、鮮明な思い出は、引率教員のある所での会話であった。教頭に「竹ノ下です」と伝え、返事に「例の場所だな」と念を押す。ごく短いものであった。家に戻って、当時内緒の地形図に当ると、とある十字路、現在の「鉄町（くろがね）」近くに「竹ノ下」と注記され、そこがこの夜行軍コース折返点で、出発地から約10kmほどの所にあたった。同じ道は戻らず、右折し北上を続けるうちに夜が白み出し、小田急線に達し（当時、田園都市線はなかった）越して、線にからむ形の鶴川街道を、今度は東に向け、歩み出した。

すぐ、小さなホームに、さらに短い三角屋根という、両側線路の「柿生」駅が見えたので、これで終わりとホッとしかけたら、次までという情報が走り抜けた。

夜明けとともガクッときていた意識が、これでさらに重たく響いたが、私鉄の1駅ぐらい大した距離でないはずと言い聞かせ、30分毎に新宿をめざす電車を恨めしく見送るばかり。この次の「西生田」、現「読売ランド前」までの駅間距離は、今その間に2駅あるほどの、新宿から西に、はじめて4kmを越す、純農村域であった。

水戸1高では、現在も伝統行事として、いわき、日立から水戸までの長距離行軍レースが続けられていると聞く。

（H26.01.14）



地理調査所 25万分1「東京」NI54-2 S25（1950）編集 同年5月発行 試作図（原寸）
2次大戦後復興期アメリカ図の影響を受け、20万分1に代わる25万分1で、各縮尺間の統一を図ろうと試作。しかし、実施されずにこの図に止まった。
図への加筆は、井口による
1. スタート点「丸子橋」西側　2. 転向点（折返し）「竹ノ下」十字路　3. 東急小田原線「柿生」駅　4. ゴール点、同線「西生田」駅、この間25km